

平成28年度「スポーツクラブ21ひょうご」芦屋市推進委員会会議録

日 時	平成28年8月31日(水) 15:00～17:00
場 所	芦屋市立体育館・青少年センター 3階 第1研修室
出席者	委員長 西田 俊一 副委員長 古津 純子 委員 桐村 廣子, 中田 伊都子, 井原 一久, 後藤 武昭, 島田 哲夫, 和泉 淑子
事務局	福岡 憲助教育長, 川原 智夏社会教育部長, 木野 隆スポーツ推進課長, スポーツ推進課(木戸 秀行係長, 権藤 弘之社会教育主事, 藤岡 厚貴主事補)
会議の公開	■ 公開
傍聴者数	0 人

## 1 会議次第

- (1) 開会
- (2) 委嘱状・任命書授与
- (3) 教育長挨拶
- (4) 出席者自己紹介
- (5) 委員長・副委員長の互選
- (6) 委員長挨拶
- (7) 議 題  
平成27年度事業・決算報告及び平成28年度事業計画・予算について
- (8) 意見交換  
クラブ育成及び運営上の課題・悩み, 将来の構想について
- (9) 報 告  
芦屋市・阪神南・兵庫県の連絡協議会の活動(事業)について
- (10) 閉会

## 2 提出資料

- 資料 P.2～平成27年度決算書・事業報告書及び平成28年度予算書・事業計画書  
P.57～「スポーツクラブ21ひょうご」クラブ育成チェック表一覧・運営上の課題・悩みや将来の構想等  
P.68～「スポーツクラブ21ひょうご」全県連絡協議会・阪神南連絡協議会・芦屋市連絡協議会開催資料

## 3 審議経過

《開 会》

《委嘱状・任命書授与》

福岡憲助教育長より，委員 8 名に委嘱状授与

《教育長挨拶》

福岡憲助教育長

《委員長，副委員長の選出》

「スポーツクラブ 21 ひょうご」芦屋市推進委員会（以下，「推進委員会」という。）設置要綱第 5 条に基づき，委員の中から互選により西田委員が委員長に選出され，古津委員が副委員長に指名された。

《委員長挨拶》

西田俊一委員長

《議 題（以下要旨）》

西田委員長：それでは，まず，第 1 号議案「各クラブの平成 27 年度事業・決算報告及び平成 28 年度事業計画・予算」について説明を事務局からお願いします。

事 務 局：【各クラブの「平成 27 年度決算報告，事業報告」及び「平成 28 年度の事業計画，予算」を資料に基づき説明】

西田委員長：ただいまの説明でご質問等がございましたらお願いします。

西田委員長：各クラブによって基金の残高にかなり差があるかと思えます。各スポーツクラブ 21 ひょうご（以下「SC 21」という。）において 5 年間で基金を使い切らなければいけないのかどうかというところで，その差が出てきたのだと思いました。この会議を積み重ねていくことで現場の方にもつながっていくことでしょうし，その意見をいただき，この場で次のテーマや今の環境をどうするかということと一緒に考えていく会議だと思えます。ですので，まず SC 21 芦屋市連絡協議会から来られている方については，どう推進していくのかを議論するためにも各 SC 21 で意見を反映させてもらいたいのと，また，現場で困っておられる方，各 SC 21 で困っていることや活動していることをここに持ってきてもらうことをお願いしたいと思います。会議の経過について，分かっておられる方もいますが，初めての委員さんもおられるので，事務局から基金の残額が違っていることのいきさつを説明しておいた方が良いでしょうと思います。

事 務 局：はい。基金残高が現状で 0 円から 500 万円台までクラブによって異なっていることについて，そもそも SC 21 の事業ですが，兵庫県から 1，300 万円の

お金をいただいて、SC21を設立しませんか、ということで始まった事業であり、800万円の設立費用と運営費として1年で100万円を5年間、計500万円を合わせた、1,300万円を使ってください、という形になっておりました。ここで、このお金を5年間のうちに使わなければいけないと認識されたクラブがあったこと、あるいは、大切に1,300万円を使っていこうと計画されたクラブもあったことから基金の残高に差が出てきてしまっております。しかし、基金を使って運用していく仕組みはどのクラブも出来ておりますので、たとえ0円のクラブであっても、運営については自主財源でできておりますので特に問題等も生じておりません。こういった経緯が基金残高の差にはございます。

西田委員長：ただいまの説明も含めて何かご質問やご意見はありますか。

井原委員：各決算書の収入の部について、助成金という項目とクラブ財源金や自主財源積立金といった名目があるのですが、その中で自主財源繰越金というものがあります。これは、助成金とはまた別に内部で積み立てておられるファンドなのでしょうか。

事務局：はい。基本的には、クラブの収入は助成金と自主財源に分けられます。自主財源というのは会費であったり、イベント時の参加費であったり、利息といったものを集めたお金でございます。そちらの自主財源のうち1年間で使われなかったお金が自主財源の繰越額として次年度に繰り越されております。

井原委員：ということは年会費や活動費だけでなく、イベント等の費用も含めてこれだけ残っているという考え方でよろしいのでしょうか。

事務局：助成金以外のお金が残った額だと捉えていただければと思います。

西田委員長：連絡協議会は年に何回ぐらい開催されるのですか。

事務局：3回程です。

西田委員長：事前あるいは事後の連絡協議会時に今回の資料は出されますか。

事務局：資料については、連絡協議会で提示をさせていただく予定でございます。

西田委員長：分かりました。他の方は何かご意見はありますか。

ないようですので、このまま承認ということでよろしいでしょうか。

(承認)

#### 《意見交換（以下要旨）》

西田委員長：続きまして、SC21の育成について意見交換をさせていただきます。このことについては、平成26年度より3クラブずつ実際のクラブの運営を行っていたいる方にご説明をいただくことになりました。昨年度は宮川・浜風・打出浜の3クラブが、今年度については山手・岩園・精道の3クラブが説明されます。質疑応答については各クラブの発表毎にお願いいたします。それでは、SC21 YAMATEからお願いします。

山手発表者：【クラブ概要・特長・課題について発表】

西田委員長：ありがとうございました。ただいまの説明でご質問等がございますか。

井原委員：近隣の住民の方のご意見というのはだんだん増えてきている傾向にあるのですか。

山手発表者：今いただいている意見以上に出ないように頑張っております。特に音の問題で、実際に夜間のバスケットボールでどのような音が外に漏れているのかと思いついて、19時～20時頃に体育館の外の道まで聞きに行きました。確かにボールの響く音、バスケット特有のピーという電子音がかなり聞こえていて、それが耳障りになっていて気になりだすと、やはりご近所の方は迷惑に思われるのだと思いついた。また、今後、体育館の建て替えのタイミング等で防音にするといった対策は必要になってくるかと思いつきます。

西田委員長：他のSC21でもあると思うのですが、スポーツをするということは大きな声を出したり、音の出しすぎというのは当然あると思いつきます。その時間帯というのも関係するかと思いつますが、静かにスポーツをするのではなく、やはり元気＝大きな声ということになります。また、熱中症対策として、指数が規定値を超えると大会をやらないとか、運動を控える、ということになると、今後温暖化も進み、当たり前だった昼間の大会が、ほぼできなくなります。そうすると早朝と夕方、もしくはナイター設備も必要となってきますが、ナイターの時間の活動では、騒音問題も出てきますので、やはり皆さんにスポーツをどうやって理解してもらうのか、そういったところが大事になります。誰か1人でも地域でスポーツに理解がない方がおられた場合、クラブ活動を辞めてしまう、あるいは、皆で説得をする、という選択に立たされますが、行政としては反対意見が出ると活動の自粛を推すイメージがあります。そういった課題に対して、SC21が市民団体としてどう取り組んでいくのか、ということだと思いつきます。音の問題についてもそうですし、せめて20時、21時くらいまではナイター設備のついた施設でやらせてあげたり、特に夏場については昼間を避けて夕方にやらせてあげたりだとか、冬場は日没が早いので、といったように考えなければならないことがたくさんあると思いつきます。SC21というのは地域に1番近いところにあるので、それを皆で応援しながら、また地域の方の理解をもらっていく努力をしてやっていかなければいけないと思いつきます。SC21 YAMATEが抱えている問題というのは各SC21が抱えている問題にこれからなっていくのではないかなと思いつるので、非常に大きな問題だと思いつきます。この件に関して、連絡協議会の方ではいかがでしょうか。

桐村委員：三条では周りにマンションもありますし、音に関しては不快に思われている方もいらっしゃると思いつます。それと車についても、どうしても駐車場に限りがあるので、送り迎え等のちょっとした路上駐停車でも苦情の対象となってきます。やはり人

それぞれ感じ方が違いますので、音の問題は難しいです。

西田委員長：マナーの問題については、実際に活動する現場の立場からすると、辛いところがあると思います。車での送り迎えや、タバコの問題というのはまた考えなければいけないのでしょうか。そういった苦情が来た場合は、スポーツ推進課としてはどうなのでしょう。活動を止めようという方向になるのか、説得しようという方向になるのか。

事務局：難しい課題だと思いますが、スポーツを守っていかなければならないということからも一応説得の方向にはしますが、折り合いが着くようにお話をさせていただく形になると思います。

西田委員長：島田委員はいろいろところで総合型（スポーツ）クラブということでやられていると思うのですが、こういった問題に対してはどう思いますか。

島田委員：これらのクラブの課題というのは実は日本中、世界中、皆同じ悩みを抱えております。これは芦屋、兵庫、日本だけじゃなくてスペインでもドイツでもアメリカでも、やはり皆同じで、いろいろなことに対する不寛容さというのが激しくなっていており、特に、におい、音、要するに五感に関わる不寛容さというのはすごく高まっていますよね。この辺にどう折り合いを付けるかというのは世界中でもすごく問題になっています。しかし、スポーツというのはこういうものなのだと言いつつ、地域も循環していくという前提の下、あまり不寛容になってNGばかりが多くなっていくと何も活動ができなくなってしまい、スポーツ以外の例えば楽器の音や料理教室のにおいも含め、全て不寛容になっていくことで地域活動がなくなり、衰退し、地域が循環しなくなってしまう、というところでなんとか折り合いをつけていくしかないのが現状かなと思います。

山手発表者：それと1つは日ごろからのコミュニケーションを上手にとっておくことが重要なのでは、と思います。よい近所づきあいをして、何か事が起こった際に「すみません」の一言で許してもらえらるくらいのコミュニケーションをとっておくということが大事なのではないかと思います。

島田委員：非常に大変な問題だと思います。折り合いという意味では、今おっしゃられたように、小さなコミュニケーションを積み重ねるしか、解というのはないと思います。

西田委員長：ありがとうございます。共通の課題になってくるかと思いましたが、少しお時間をとりました。なにもしないまちじゃなく、なにかできるまちにしたいな、というのがSC21の精神ではないかと思います。他に質問等はありませんか。ないようですので、SC21 YAMATEの発表者様ありがとうございました。

西田委員長：それでは続いて、岩園SC21のご説明をお願いいたします。

岩園発表者：【クラブ概要・特長・課題について発表】

西田委員長：ありがとうございました。岩園小学校は特に子どもが増えているという、違った

環境もございますので、非常にユニークな活動をされているということだと思います。他の方でただいまの説明にご質問等はございますか。

岩園発表者：補足ですが、児童数が増えてきている割には、それに比例して子どもたちのクラブの加入率が増えているかと言われれば必ずしもそうではないところもあります。また、先ほどの課題に対してもですが、やはり1番大事なのは地域のつながりというか人と人とのつながりの中でお互いに譲り合って、理解しあっていくという方法しかないと思って今まで努力してまいりました。ご意見についても、意外にも新しく入られた方がおっしゃられる場合が多く、長く地域で住まわれているとその辺のところもお互いに寛容になれるというのもあるかなと思うのですが、その努力はコミスクのときから続いていることで今始まったことではないと思っております。何かルールを決めていただいてもその通りにはならないのが現実かと思えます。

西田委員長：地域柄で高学年になると受験の為に塾に行って文化活動やスポーツ活動をしなくなるのは少し悩みだと思います。岩園のチームカラーというのでしょうか、学校の色をチームカラーにするというのはスポーツをする中で、とても大事なのではないかと思います。他のクラブでもされているのでしょうか。

岩園発表者：皆さんされていると思います。

西田委員長：地域全体が同じような色に統一することで地域やまちの連帯感が生まれておもしろいなと思います。

岩園発表者：なかなかそこまでできていないのが現状です。作ったタオルについても皆さん本当に大事に使ってくださっていて、今も大会等で優勝した方に差し上げると何よりも喜んでくださいます。

西田委員長：気持ちを1つにする一種のシンボルとして、カラーであったり、グッズであったりというのは大切かなと思います。

後藤委員：学校側からすればどのSC21もそうなのですが、子どもたちの健全育成ということで子どもたちの活動の場を作っていただいているので非常にありがたいと思います。山側のクラブさんはどうしても私学に行かれる方や通塾される方もおられて、ずっと続けていくのが子どもたちの中で少し難しいところがあって、低・中学年が中心となってしまっているのが少し残念な気がします。

西田委員長：これは岩園地域だけではなく、芦屋市全体としても、そういった傾向にあるので、考えていかねばならないと思います。

岩園発表者：受験が終わったら、2月末くらいからまたクラブに戻ってきて再開するお子さんもいます。ただ、そこから入会するので入会金をもらうのも申し訳ないという思いもあるくらいなのですが。そういったように受験後に1カ月でも2カ月でも、という人もいらっしゃいます。

西田委員長：他に何かございますか。ないようですので、岩園SC21の発表者様ありがとう

ございました。

西田委員長：それでは最後になりますが、SC21精道のご説明をお願いいたします。

精道発表者：【クラブ概要・特長・課題について発表】

西田委員長：ありがとうございました。ただいまの説明でご質問等はございますか。

西田委員長：SC21精道の場合は、コミスクとの違いを意識されてSC21としてのビジョンを持ってやってこられているということですが、旧コミスクでやっておられていた方との意識の違いというのはあるのでしょうか。

精道発表者：悩みの一部ですが、SC21というのが一般の方にどれほど根付いているか、ということについてはかなり弱いと思っております。ただ、組織的には、役員はコミスクからSC21の役員に、あるいはその逆といったように相互に派遣ということもございますが、基本的には役員体制は別になっています。それからもちろん総会や意思決定に係る部分についてはそれぞれ独立していますし、夏祭りなどの共同事業についてはそれぞれのお金を拠出しあって事業を行っていますし、会計的にもきちっと切り分けて運営しております。

井原委員：本日、ご出席の3クラブについては、財源的にもしっかり残されていて安定基盤を築かれている気がします。そもそもSC21ができた際は縦割り行政で、全国的に文科省が旗を振って地域に総合型地域スポーツクラブを展開していこう、ということでしたが、岩園SC21発表者の方もおっしゃられていたように、全国的な総合型クラブがだんだんと芦屋市のコミスク活動に近づいてきているとも感じます。芦屋市の良さというのはコミスクと一緒にやってきた、ということころだと思いますし、これは予算が違ったところからスタートしたとは言え、そもそもの芦屋市のスタイルとして一緒にして運営した方がもっといいのではないかと思います。実際、そういうことは行政的に可能なのでしょうか。あまり縦割りで考えず、もっとグローバルな芦屋市らしい活動ができるのではないかなと感じました。

西田委員長：昨年の会議の中でも事務局からお話があったかと思いますが、兵庫県のSC21が文化活動を認め始めました。当初、立上げの時はSC21を県下の各小学校施設に作るようにと上からのお達しでありました。当時、芦屋市ではそれに近い、斬新的なコミスクという組織があり、そこから文化的なものを省いたものをSC21にしたということでした。しかし、ここ数年、県の方が遅れてではありますが、文化活動も含めた小学校校区のSC21を言われるようになり、まさに、実質でいうと芦屋市のコミスクとSC21というのは分ける必要がないのでは、という意見も昨年、出ていたのではないかと思います。これは行政的に言えば無理だとしても、すぐとは言わず将来に向けて考えていく必要があるかと思います。そういう意見が出てきたとしても、現場の方々から、分けないほうがいいのではないかという意見が出てこない、なかなか行政も動けないと思います。この場

で、そういった意見があったこともそうですし、我々も各委員の方も時々、SC21をコミスクと言ってしまうこともありますので、一緒にしたほうが分かりやすい上に活動しやすいのではないかと思います。県のお金をもらっていることもあり、当面はきっちりと決算報告をしなければいけないというところはあったのですが。そこは別としても、兵庫県の方でも例えばコーラスのような文化活動も含めてSC21の活動としております。先ほどのSC21 YAMATEの発表の中でもありましたようにスポーツを通じた地域活動、文化を通じた地域活動の中で音がうるさいといったような問題は、地域の方がそこに一緒になって参加してくれたらなくなるような気がします。毎年、少しずつそういった話が出てきてだんだん大きくなってきているのかなと思います。3クラブの報告を経て今後のこの推進会議の場でも考えていかなければいけないテーマかなと思いましたし、特に今後、発足から何十年も経ったらもっと環境も変わってくると思います。各SC21の実態というのはどうなのでしょう。

桐村委員：コミスクとSC21のお金の問題はいろいろあるかと思いますが。ただし、動いている人は一緒です。やっていることはSC21であってもコミスクであっても、来てくださる方は地域の方です。ただ、皆さんに喜んで帰ってもらえたらいいかなという思いしかないので、分けなければいけないということで、名目上分けられているだけ、という側面もあります。

西田委員長：精道の発表に関して、他に何かございますか。

西田委員長：SC21をしっかりとやっという表れもありますし、今回の3クラブについてもそれぞれ特長的でありながら財政的にもきちっと管理されております。全体で何か気が付いたことなどもございませんか。

和泉委員：子どもの頃にコミスクの活動をさせてもらっていたことや、両親が精道や朝日ヶ丘のSC21でお世話になっていたこともあったのですが、先ほどのコミスクとSC21の違いというのも私自身よく分かっておりませんでした。参加者としてはネーミングの違いだけで中身は一緒なのだろうと思っているので、お金の出所と管理だけの問題なのだろうなと思います。コミスクとSC21を併せた形で捉えている方の方が多いのではないかと思います。

西田委員長：今の現実がそういうことであり、今後、行政の方でどう整理していくのかも考えていただきたいと思います。3つのクラブ報告で共通して思うところがやはり役員であったり、世話人の方が高齢化してきたとか、スタッフをやっていた方が少なくなったり、発足当時から頑張っているけれども後継者が育たないという課題が伺えたのですけれども、実際、朝日ヶ丘SC21でもそういった現状なのではないでしょうか。

中田委員：サークルによってですが、子どものサークルはメンバーの入れ替わりがあるので、役員さんも新しく入られて頑張ってくださいの方は、子どもがいなくても、継



続いて一緒に指導者としてやってくださいます。発足当時から始まっている大人のサークルでは、現在では高齢化が進んだことで新しい加入者が入りにくくなっているという現状があり、そういった意味では活性化はできておりません。しかし、その方たちもすごく一生懸命にやってくださっているのです、コミスクやSC21を盛り上げていくためにはすごく大切な人たちなので、世代交代の問題とは違いますが、どうしたものかなと思っております。ただ、そのサークルも、新しく入る人を誘おうという気配が感じられないのも事実です。

西田委員長：古くから地域に住んでおられる方はある程度理解があるけれども、新しく入ってこられた方はそうでもないというところもありますね。

山手発表者：居住年数の長短がどこまで関係しているかは、わかりませんが、最近私どもが経験しているこれはいいぞということがありまして、先ほど誰かからキッズスクエアという切り口が出ましたが、これは放課後の子どもの居場所を作ろうということで、今各小学校で取り組んでいる事業で、子どもたちを対象にそこでいろいろなプログラムを組んでやってもらうのですが、私が活動しているペタンクも放課後にやってみました。そうしたところ、「これ何」と言ってきて面白がってやる子ども、あるいは、そのうちに飽きてしまう子どもなど様々いる中で、随分ハマった子どもが2～3人出てきたのです。先日の大会にも出ましたし、「次はいつ練習するの」と言い出す子どもも出てきております。実際、小学校4年生か5年生のときにペタンクをやってみたいと言ってきた子が今、大学2年生になってジャパンオープンでも優勝しましたし、世界に出ていくレベルの腕前になっているのです。そういったように子どもを長い目で見て育てていく、それによって新しい協力者や理解者の輪を広げていくというのがこのSC21を持続していく大きなコンセプトの1つになると思います。サッカーにしても空手にしても子どもを対象にやっておりますが、この子たちがどんどん大きくなっていったその種目に理解を示し、力を磨き、そしてSC21にも理解を示し、今度は自分が担い手になろう、と思ってくれる、そういったような人材を育てていくというのはこのSC21の持つ大きな意味合いであると思っており、我々のペタンククラブについても小さな芽が伸びてきている、そんなような感触を得ており、とても嬉しいことだと思っております。

西田委員長：新しく入る方が入りやすい環境を作ってあげられるかどうか、それともう1つは他地域から引っ越されてきた方が、地域のコミスクやSC21に入った時や新しいクラブを作った時に受け入れる環境があるかどうか、というのも各SC21で考えていただきたいと思います。また、やはり施設が限られていると思いますので、新しいクラブが入るときに既得権だけで拒んでいないかどうかというのがすごく重要だと思います。子どもが少なくなって、規定人数のチームで活動ができなくなったのに、グラウンドを同じように使っている。それだったら、どこかの

グラウンドで集約して練習する，空いた時間を他のクラブに貸してあげる，そういったようなことが，どうもできていない気がします。1回そのグラウンドを手放すと手に入らないというのはなにか変な先入観があるのですよね。そうではなくて，お互いシェアして譲り合っていくというのが，スポーツのいいところだと思うのです。それは少し考えていただけたらと思います。

岩園発表者：その件に関しては，十分に考えながら進めているところでございます。実は，岩園小学校の校舎改修時に仮設校舎が建って，グラウンドが半分になってしまったことがあります。練習が実質的にできなくなってしまって，そもそもサッカーについては正式なコートが作れない程，狭いコートでした。そんなグラウンドが半分になってしまった際に，岩小のグラウンドがたとえ狭くなってもそこでできる練習を続けますというサークルがほとんどだった中，あるサークルは「よそに行きます」ということで工事が終わるまで丸1年くらいありましたので，その間，遠いから通わせることができない，という理由で，結局新しい1年生が入らなくなってしまったのです。その後，今度は戻ってきた際にとっても困られまして，そういった経験があったものですから，基盤という基地は置いておこうと，浜風さんともお互いに話し合っ，また人数がちゃんとそろったときにはベース基地があるようにしようということで，名前を置いておりますので，グラウンドを使う，使わないに関しましては，今，岩園では別にこれがあるからどこかのサークルが使えないというそういった状況にはなっていません。それに譲り合いに関してもサッカーが朝日ヶ丘から分かれているときにテニスさんと譲り合っていましたので，そういう意味では譲り合いながら目一杯使うというのはできております。また，先ほどのお話にもありました，大人のサークルはそのメンバーで固定してしまって仲良し会的になってしまうという懸念はコミスクの時からありました。また，SC21ができる以前から，岩園ではオープンスクールというのを各サークル少なくとも年1回はするようにしておまして，種目によっては人数が多くなりすぎたらできないというのも場合によってはあるということで，必ず年1回すべてのサークルができているとは限らないのですが，オープンスクールという名前は残して，SC21の方でも今も進めております。

西田委員長：他にご質問はございますか。クラブの発表者様ありがとうございました。また，連絡協議会でも今日の意見を持ち帰っていただいて日々の活動を頑張っていたいただけたらと思います。

《報告（以下要旨）》

西田委員長：それでは続きまして，SC21の芦屋市・阪神南・全県の連絡協議会の活動報告について事務局お願いします。

事務局：【全県連絡協議会，阪神南地区連絡協議会，芦屋市連絡協議会を資料に基づいて

【説明】

西田委員長：ただいまの報告に何かご質問等はございますか。ないようですので、本日の議事については終了でございます。最後何かご意見があればお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

西田委員長：私の方からですが、本日、貴重なご意見が出ましたし、活動されている皆さんにおかれましては大変なご苦勞をされております。連絡協議会においては本日の報告をぜひまた、反映していただいて、各SC21にも持って帰っていただけたらと思いますので、その積み重ねをしていただき、環境も変わってくるかと思いますので毎年改善できたらなと思っております。また、井原委員が言われましたコミスクとSC21の関係というの、見直してもっとわかりやすくし、組織を簡素化した方が皆さんも入りやすく、また活動しやすくなるのではないかと思います。かえって無理やり分けているところもあるかと思います。この会議だけでは決められませんし、これは行政側の事情もあるでしょう。県との関係もあると思えます。そうは言いながらも現場が一番大事だと思いますので、各SC21の皆さんの意見も大きくなれば、それをもってなにかするチャンスもあるかと思いますので、本当に、皆さんが活動しやすくなるような環境を皆でサポートしたいというのがこの委員会の方針だと思います。その辺のところも連絡協議会でお伝え願えたらなと思えます。

西田委員長：それでは、進行を事務局にお返しします。

事務局：本日予定している議事については、以上となりますので閉会にあたりまして社会教育部長からお礼のご挨拶を申し上げます。

川原部長：【挨拶】

散 会